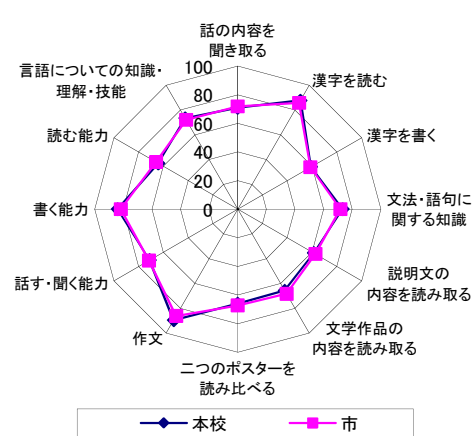


宇都宮市立宝木中学校 第1学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話の内容を聞き取る	71.0	71.9
	漢字を読む	87.7	85.7
	漢字を書く	59.1	58.7
	文法・語句に関する知識	73.3	71.7
	説明文の内容を読み取る	61.3	62.6
	文学作品の内容を読み取る	65.7	68.3
	二つのポスターを読み比べる	66.0	67.2
	作文	89.6	86.2
観点別	話す・聞く能力	71.1	71.7
	書く能力	84.0	81.8
	読む能力	64.2	65.9
	言語についての知識・理解・技能	73.5	72.1



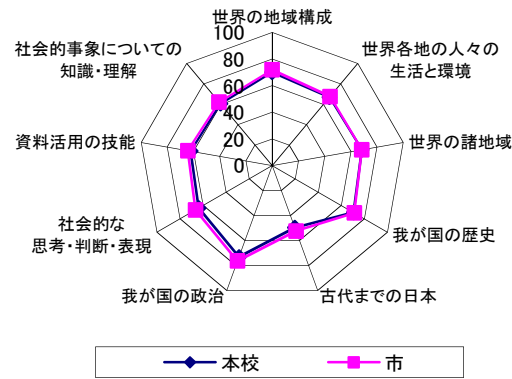
★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話の内容を聞き取る	市の平均を0.9ポイント下回った。 人の話を聞きながら、要点をおさえることが苦手な生徒も多いと、日々の授業からも感じる。	定期的に聞き取りの課題を課していきたい。 話を聞きながら要点を的確にとらえるには、やはり訓練、繰り返しの練習が必要である。授業はもちろん、日常生活でも、よく聞くことの大切さを指導していきたい。
漢字	読みの問題は市の平均を2ポイント、書きの問題は0.4ポイント、それぞれ上回った。今年度から補助教材として「漢字ノート」を使い、指導に力を入れた成果が出たと言える。しかしながら、「読めるけど書けない」漢字が多いのは一般的にそうだが、それでも正答率が6割程度にとどまっているのは、指導改善の要ありと思える。	「漢字ノート」を活用し、提出を義務づけているが、定着していないのが現状である。定期テストでも20点分漢字の読み・書きの問題を出しているが、正答率は芳しくない。 家庭での反復練習を徹底させ、確実に定着するよう指導をしていきたい。
文法・語句に関する知識	市の平均を1.3ポイント上回った。 授業においても本校の子どもたちは意欲的に取り組んでいたように思える。	文法に関しては苦手意識を抱く生徒が多く、特に、2年次で学習する活用のある自立語の単元でつまずく生徒が多い。今回市の平均を上回ったということに自信を持たせ、高い意識を持って次の内容に入っていけるよう指導を工夫していきたい。
説明文の内容を読み取る	市の平均を1.3ポイント下回った。 文章の構成や展開を的確にとらえる力がまだまだ不十分で、さらにそれをまとめることが困難な様子がうかがえる。	段落相互の関係に着目させたり、意味段落でわけ、それぞれをまとめる活動に重きを置いて指導していきたい。説明的文章によく見られるレトリックを理解しておけば解きやすい問題も多いので、そこに子どもたちが気付けるようにしていこうと思う。
文学作品の内容を読み取る	市の平均を2.6ポイント下回った。登場人物の心情をとらえることを苦手とする生徒が多いようだ。	文学作品特有の、行間を読んだり、登場人物の心情を想像したりする力が不足しているようだ。授業の中で発問を工夫し、意識的にそれらに着目できるよう指導していきたい。
二つのポスターを読み比べる	市の平均を1.2ポイント下回った。「比較しながら文章を目的に沿ってまとめて書く」ことが特にポイントが低かった。	ポスターを作る際の工夫をとらえる問題はおおむね満足いく正答率だったが、比較し、それをまとめて書く問題に課題が残った。論理的に作文することが苦手なようで、順序立てて考え、文を作れるよう指導していきたい。
作文	市の平均を3.4ポイント上回った。授業で個別指導を大切にし、子どもたちも意欲を持って練習に取り組んだ結果と言える。	構成の基本や作文用紙の使い方など、作文を書く上で必要になる知識をしっかりと定着させていきたい。個に応じた指導が必要不可欠となるので、これからも個別指導を大切に、一人一人に丁寧に指導していきたい。

宇都宮市立宝木中学校 第1学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	世界の地域構成	70.1	71.9
	世界各地の人々の生活と環境	67.0	67.7
	世界の諸地域	68.4	68.4
	我が国の歴史	70.6	71.2
	古代までの日本	49.6	52.3
	我が国の政治	73.0	76.3
観点別	社会的な思考・判断・表現	63.8	66.5
	資料活用 of 技能	62.1	64.3
	社会的な事象についての知識・理解	60.5	62.1



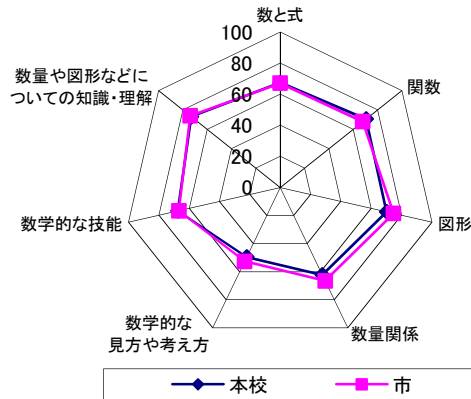
★指導の工夫と改善

領域		本年度の状況	今後の指導の重点
地理	世界の地域構成	正答率は、市の平均より、1.8%下回っている。4問中3問は上回っているのだが、図中の一地点の緯度経度を読み取る問題で下回ってしまった。	資料の読み取りを強化したい。そのために資料を見て自分たちで考えまとめ発表するような場を授業の中で取り入れていきたい。また、基礎的な知識をより定着させるために小テストを続けていきたい。
	世界各地の人々の生活と環境	正答率は、市の平均より、0.7%下回っている。3問中2問は上回っているのだが、世界各地の人々の生活に関する理解をもとにファストフードチェーンが行っている工夫について考える問題で下回ってしまった。	
	世界の諸地域	正答率は、市の平均と同じである。市の平均を大きく上回っている問題もあるが、特にアジア州における主な国々の特色をグラフから読み取る問題や南アジアの国々の独立の背景を資料から読み取る問題が大きく下回っている。	
歴史	我が国の歴史	正答率は、市の平均より、0.6%下回っている。東京オリンピックまでの日本の社会の変化を問う問題は4%上回っているが、太平洋戦争を図から読み取る問題が5%下回っている。	資料や年表の読み取りを強化したい。そのため歴史上の出来事を資料から読み取り、発表するような場を授業に取り入れていきたい。また、基礎的な知識を定着させるために、小テストを続けていきたい。
	古代までの日本	正答率は、市の平均より、0.7%下回っている。弥生時代の社会の様子を資料から読み取る問題や年表を読み取る問題、飛鳥時代や奈良時代の主な出来事を問う問題で大きく下回っている。	
公民	我が国の政治	正答率は、市の平均より、3.3%下回っている。国民主権についての問題が10%、国民の義務についての問題が7%と大きく下回っている。	まだ公民の授業はないため、歴史や地理の授業の中で関わりのある事象を学ぶ際、取り入れていきたい。

宇都宮市立宝木中学校 第1学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と式	67.3	67.1
	関数	70.6	67.9
	図形	70.1	74.7
	数量関係	62.4	66.5
観点別	数学的な見方や考え方	49.5	52.6
	数学的な技能	67.5	66.8
	数量や図形などについての知識・理解	73.0	73.9



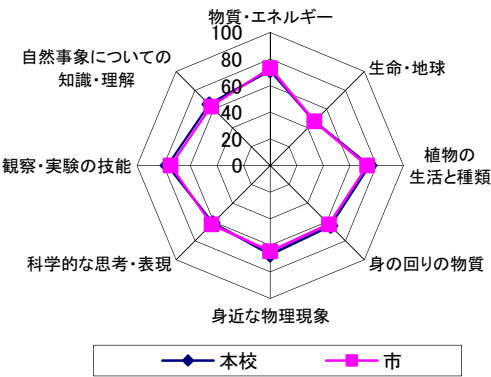
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	正答率は、市の平均より、0. 2%上回っている。 問題別に見ると、数の大小や不等号の問題、応用問題が市の平均より下まわっている。 計算問題などは、市の平均に達しており、方程式に関しては、3点以上市より上回っている。	計算力の定着が図れてきているように感じる。ただ、数の大小など数の大きさを比べる問題が解けていなかった。ので、数直線などを用いてわかりやすく指導していかなくてはならないと感じた。
関数	正答率は、市の平均より2. 7%上回っている。 比例・反比例の式を求める問題や、比例の関係の理解度は、市を上回っている。 しかし、比例の関係をグラフに表したり、座標をとる作業は、市の平均を下回っている。	比例に関する理解度は高いので、式、表、グラフとつながりをもたせた指導をすることで苦手意識をなくしていきたい。また、問題に多く取り組ませて定着を図りたい。
図形	正答率は、市の平均より4. 6%下回っている。 小6の内容である図形の拡大や縮図の応用問題が市の平均を下回っている。	小6で学んだ内容のほとんどが市の平均を下回っていることから、過去にやったことが定着していないことがわかる。授業での理解度はあるので、復習の機会を多めにとったり、家庭学習などで定着を図る機会を多く与えたい。
数量関係	正答率は、市の平均を4. 1%下回っている。 小6の内容である。場合の数の問題にて平均点に大きな差が見られた。	小6で学んだ内容のほとんどが市の平均を下回っていることから、過去にやったことが定着していないことがわかる。授業での理解度はあるので、復習の機会を多めにとったり、家庭学習などで定着を図る機会を多く与えたい。

宇都宮市立宝木中学校 第1学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	物質・エネルギー	71.4	73.3
	生命・地球	47.1	47.0
	植物の生活と種類	74.7	72.9
	身の回りの物質	64.1	62.4
	身近な物理現象	67.0	64.5
観点別	科学的な思考・表現	61.1	62.5
	観察・実験の技能	77.2	74.8
	自然事象についての知識・理解	64.9	62.8



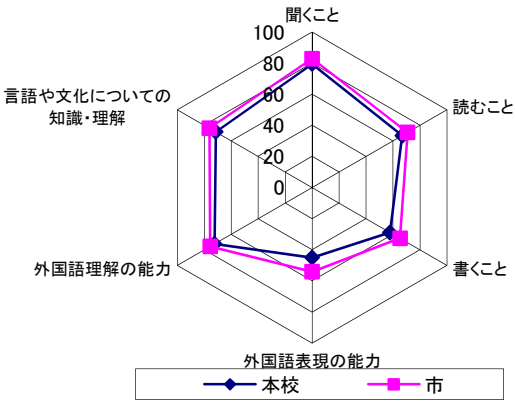
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	正答率は市の平均を1.9下回っている。 問題別にみると、原理や法則についての問題はよくできている。しかし、その原理や法則が分かっているにもかかわらず、それがどのように利用されているかの問題に関しては正答率が低くなっている。	原理や規則性について、小テストを実施していくことで、より向上をさせたい。 また、物理・エネルギー現象が生活のどの部分で役立っているかなどを提示しながら授業を進めていきたい。
生命・地球	正答率は市の平均を0.1上回っている。 問題別にみると砂と泥の違いや、地層についてなどの知識の問題の正答率が低い。	重要語句の確認を行い、ただ単語を覚えるのではなく、意味も合わせて覚えるようカードなどを用いて定着をさせていく。
植物の生活と種類	正答率は市の平均を1.8上回っている。問題別にみると、実験の技能に関してはよくできている。知識に関しても語句の意味等は理解できているようである。 しかし、それらの知識の関連付けて答える問題に関しては、正答率は低くなっている。また、実験結果から、答えを導く問題については苦手なようである。	授業で扱う実験に関して、今までよりも充実させていきたい。 語句を関連づけて覚えるために、小テストや単元テストを行えばと思う。 また、ただ実験をするのではなく、どういった理由から実験を行うのかを明確にしていくよう心掛けていきたい。
身の回りの物質	正答率は市の平均を1.7上回っている。 問題別にみると実験を行う方法の名称や方法に関しては高い正答率である。計算を使っの物質の特定や、身の回りで行われていることと、学習内容の結びつけが苦手なようである。さらに、実験の結果から考察していく力も全体的に低いようである。	計算問題などを授業の中でも様々なレベルのものを用意し、多くの問題に触れられるようにしていく。 実験の動機付けとともに、結果から何が分かるのか、どういった法則があるのかを個人やグループで考える時間を多く設けていきたい。
身近な物理現象	正答率は市の平均を2.5上回っている。 問題別にみると、実験の条件を変えたときの結果を予測するのが苦手なようである。法則の内容に関しては理解をしている。	身に付けた知識の活用をさせていくために、実験と知識の関連付けを、授業の中でよく説明していく。 また、実験の考察から、さらなる疑問、探究心がはぐまれるような資料を充実させていきたい。

宇都宮市立宝木中学校 第1学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	聞くこと	79.4	82.8
	読むこと	66.9	70.8
	書くこと	57.7	65.2
観点別	外国語表現の能力	45.0	54.1
	外国語理解の能力	72.5	75.7
	言語や文化についての知識・理解	71.6	76.2



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	正答率は、市の平均を3.4下回っている。 ただ、聞く・読む・書くの3領域の中では一番正答率は高くなっている。 問題別に見ると、絵を見て答える問題は比較的高いですが、対話を聞いて応答を選ぶ問題の正答率がとても低い。	普段の授業でも、はじめのウォームアップを充実させ、英語を聞く時間を少しでも増やし、生徒との対話・生徒同士の対話練習の時間を増やしていきたい。 リスニング問題練習も単元ごとに行っているが、これからも継続していきたい。
読むこと	正答率は、市の平均を3.9下回っている。 聞く・読む・書くの3領域の中では聞くことの次に高くなっている。 問題別に見ると、短い対話文の問題は比較的高いですが、読む文章が長くなると、正答率が低くなっている。	授業の中では基礎・基本問題の定着ばかりを重視し、長文読解を練習することがほとんどない。そのため、生徒たちは長文に対して慣れていないし、苦手意識が強い。単元末テストなどにも長文読解問題を入れていくようにし、普段から少しずつ慣れさせたい。長文問題のコツなども身につけていくように、時間設定などもして練習したい。
書くこと	正答率は、市の平均を7.5も下回っている。 聞く・読む・書くの3領域の中で一番低くなっている。 問題別に見ると、全体的に正答率が低いですが、特に英作文ができない。1から作文する問題が非常に出来が悪い。	英作文についても、授業の中でなかなか時間が取れない。やっても、提示した例文をもとに、あまり自分でアレンジせずに英作文をしているような状況なので、なかなか入っていかないようである。 特に自分の意見・考えを英語で表現する時間を設けていきたい。今後、英語スピーチを学年でやる予定なので、しっかりと英作文の指導をしたい。